

令和7年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立飛騨古城特別支援学校

学校番号	120
------	-----

自己評価

学校教育目標	「地域で育ち、学び、共に生きる」 児童・生徒が、生まれ育った地域で、いろいろな人たちと共に生活をしていくために、一人一人の障がいの状況や能力に応じて、個々のもてる力を高める。	
評価する領域・分野	「教育活動・学習指導」	
現状及びアンケートの結果分析等	当校の教育方針や教育活動に対して肯定的な回答が95%を超えており、高い評価をいただいている。今後も職員一人一人が教育方針を理解した上で教育活動をすすめていきたい。	
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・社会参加や自立に向けて、個別の教育支援計画に基づき、適切で効果的な指導計画の立案・実施を図る。 ・職員の専門性の向上を目指して、テーマ別研修の充実に努める。 	
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・主事会及び企画委員会、各分掌会、各部会 ・校内研修グループ ・職員研修会 	
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・授業づくりや児童生徒への支援等に関して、共通理解や検討を図るための会議の実施 ・校内グループ研修（キャリア教育、ICT教育、インクルーシブ教育、性教育）の実施と学びの共有 ・児童生徒理解や授業力向上を目的とした職員研修会の実施 	
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活全般における児童生徒一人一人の目標の達成状況 ・取組実施状況及び実施後の自己評価 ・アンケート等の外部評価 	
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の教育支援計画をもとに、個別の指導計画や指導と評価の年間計画等を作成し、実践した。 ・インターネットや書籍、実践等から得た学びを、月1回のグループ研修会や全体報告会等の中で共有した。 	
評価の視点		評価
① 児童生徒の実態やねらいに沿った指導計画の作成ができたか。		A (B) C D
② 職員間で共通理解のもと、児童生徒への指導支援にあたることができたか。		A (B) C D
③ グループ研修等の取組が学ぶ意欲や専門性の向上につながる事ができたか。		A (B) C D
成果・課題		総合評価
<p>▲全校の行事計画や単元計画をまとめたものがないために、系統性がなく、授業のねらいや個々のねらいが不明確になってしまっていたところがあった。</p> <p>○学びたいことや学び方が分かり、積極的に研修を受講したり、グループ研修会の中で互いに学び合ったりすることができた。</p>		A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・各部、各学年の系統性を重視した指導と評価の年間計画を作成し、明確な授業のねらいに基づいた指導支援を行う。 ・学ぶ意欲の継続と学びの幅を広げるために、職員が学びたい新たなテーマを設定し、グループ研修を実施する。そして、学んだ知識や技能を他の職員に還元していく。 	

評価する領域・分野	「保護者、地域との連携」	
現状及びアンケートの結果分析等	「保護者への連絡や意思疎通を積極的に行っているか」「いろいろな人との交流活動を通して児童生徒の経験を広げているか」といった設問に対する肯定的評価が90%を超えており、高い評価をいただいている。ただし、進路に関する連絡や情報提供については、より一層、明確かつ積極的に行う必要がある。	
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の立地条件や地域の教育的資源を活用した体験的な学習や交流学习を実施する。 ・家庭や地域、関係機関との連携を図りながら、校内外の支援体制を整えて教育活動を進める。 	
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・主事会及び企画委員会、各分掌会、各部会 ・支援センター 	
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・地域交流や学校間交流、交流籍交流の実施 ・公共の施設や地域の店舗等を活用した授業計画の立案 ・ふらっと定例会への参加やケース会議の開催 	
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・取組実施状況及び実施後の自己評価 ・アンケート等の外部評価 	
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・地域団体（青龍会）、地域の学校（古川小学校、古川中学校、吉城高等学校）との交流を積極的に進めた。 ・地域の施設等を活用した校外活動を積極的に行った。 ・必要に応じて関係機関を交えてのケース会議を実施した。 ・登校時の引継ぎや連絡帳、通信、懇談等で保護者との連携を丁寧に行った。 	
評価の視点	評価	
① 地域団体や地域の学校との交流を通して、相互理解を深めることができたか。	A (B) C D	
② 地域の教育的資源を活用した活動を通して児童生徒の経験の幅を広げることができたか。	(A) B C D	
③ 保護者の理解を得ながら、協力して児童生徒の支援を行うことができたか。	A (B) C D	
成果・課題	総合評価	
<ul style="list-style-type: none"> ○学校間交流では、両校が無理のない形で持続可能な交流を行うことができた。 ○地域の飲食店に作業製品を納品したことが、生徒の活動意欲につながった。 ○授業や交流活動等の様子を積極的にホームページに更新したことで、閲覧数が増加し、多くの方に当校の様子を知ってもらうことができた。 	A (B) C D	
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も引き続き、持続可能な学校間交流を計画・実施する。 ・家庭との連携の中で、進路に関する話題も設ける中で、保護者のニーズを把握し、必要な情報を提供する。 	

学校関係者評価（令和7年11月20日実施）

意見・要望・評価等
<ul style="list-style-type: none"> ・生きづらさを感じて市に相談に来られる方は、不器用な方が多く、なおかつ、理想を追い過ぎてしまうタイプだと苦しみが大きくなるため、学校ではメタ認知教育にも取り組んでほしい。 ・小学校や中学校、高等学校とのつながりは、同世代の子どもたち同士がかかわることができる重要な機会であるため、積極的に交流の場を設けてほしい。 ・アンケート結果の「わからない」の回答には、不安の要素もあるのではないかと。懇談等で保護者の思いを丁寧に聞き取りながら、共通理解を図ってほしい。